

# 吉備の歴史像を求めて

県古代吉備文化財センター所長

宇垣 匡雅



遺跡や古墳の勉強をはじめた頃、弥生時代の開始は紀元前三世紀で、終わりは三世紀、古墳時代のはじまりは四世紀の初めとされていた。弥生時代にはじまった稲作は、九州の北部から短期間のうちに伊勢湾付近にまで伝わったと考えられていた。

現在、放射性炭素の高精度な測定によって、北部九州で稲作が始まったのは紀元前一〇世紀、岡山では紀元前八世紀頃、米作りはゆっくりと東へ伝わっていったとする説が有力になっている。また、古墳時代の開始は、銅鏡の研究が進み、三世紀の中頃とすることが定説となった。弥生時代の開始は七〇〇年、古墳時代は五〇年早くなるわけである。中学校の日本史の教科書には従来の年代が示されているが、いずれ変更されていくのだろう。

研究の進展によって、歴史像は書き換えられていくことになるが、吉備の歴史はどうだろうか。かつて、吉備の豪族は農業に加えて鉄や塩の生産によって力を蓄え、造山古墳や作山古墳といった巨大古墳の築造をなしたとげたと考えられた。しかしながら、鉄の生産は造山古墳の年代よりも一〇〇年以上も後にはじまったこと、また、塩の生産

は造山古墳の頃にはほぼ途絶えていたことが分かってきた。

鉄生産の開始時期や塩生産の盛衰を明らかにしたのは、私たちがこれまで継続して行ってきた埋蔵文化財の発掘調査である。たとえば鉄であれば、いくつもの製鉄遺跡の資料を総合し検討することによって、いつ、どのようにして鉄を作り始めたのかが分かってきたわけである。

こうした調査成果や新しい評価はその都度公表あるいは展示してきたつもりだが、残念ながら必ずしもよく知られていないようにも思われる。古代の吉備については県民の関心も高いだけに、単なる御当地自慢ではない正確な吉備の歴史像を提示していく必要がある。精密な発掘調査を行うことはもちろんであるが、文化財に親しみ接する機会を提供するとともに、地域の歴史についての最新の情報を提供すること、そして、地域の歴史を解明し語ることが私たちの大きな課題である。

では、吉備に巨大古墳がなぜ作られたのかに反ろう。これは、経済力があつたからではなく、吉備の豪族が中央政権である大和朝廷に深く参画したためと考えている。